

## 「武力紛争における軍と MSF」

ジェレミィ・ボダン（国境なき医師団日本 事務局長）

どうもありがとうございます。皆さんこんにちは。このようにご招待いただきまして、大変ありがとうございます。私からは国境なき医師団（MSF）について、そして武力紛争における軍と MSF と題してお話をします。



私どもの組織の簡単なお紹介をします。人道的な介入、軍についてどう考えているのか、現場で私どもがどのように活動しているのか、そして簡単にまとめという順序でお話をしようと思います。

**Overview of MSF – who we are, what we do**

Founded in 1971 by doctors and journalists in France, we:

- deliver **emergency medical aid** to all those who require it and whose 'authorities' are unable or unwilling to provide it
- Intervene based on **principles of neutrality, impartiality** and based on **independent evaluation of the needs**
- inform the international community of the plight of its patients and those we want to help

**We deliver aid to people affected by natural or man-made disasters, armed conflict, irrespective of race, religion, creed or political affiliation.**

The slide includes a small photo of three people and a circular seal for the 'NOBEL PRIZE FOR PEACE'.

私どもの創設は 1971 年です。フランスの医師、ジャーナリストが集まって発足させました。国際的な人道医療支援団体として、緊急時の医療支援を必要とする全ての人に提供しています。そして、国家が対応できない、あるいは対応する意思がないときにわれわれが対応するというものです。われわれの原則は中立、公平で、必ず常にニーズの独立した評価を行った上で、どういう対応を取るかを決めています。また、場合によっては、われわれは国際社会に対して、例えば医師、専門家として、こういう状況に直面しているのだということを伝える役割をします。これは受け入れ難い状況である、そして、こうした行動をやめるべきだという批判的な声を挙げることもあり

ます。また、対応する事態としては、自然災害、人的災害、武力紛争で、人種、宗教、信条、政治的立場にかかわらず、文民および戦闘員、全ての人に対して医療援助を提供します。

**Overview of MSF – highlights 2013**

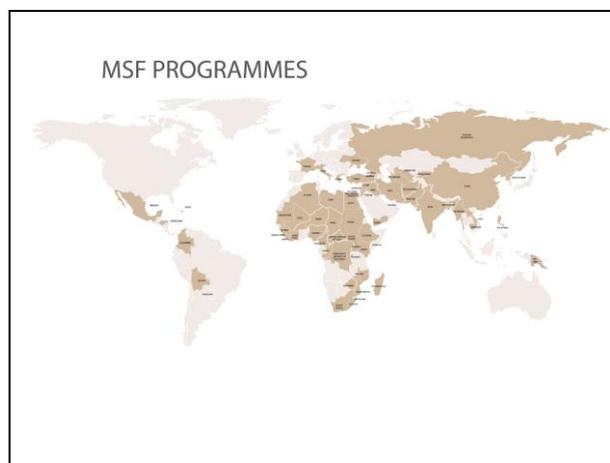
- About 35,000 staff including 2,600 international field staff
- Present in 72 countries worldwide – A third of our programmes are conflict related
- Annual budget of €952 million (about ¥140 billion yen)
- Logistics capacity of delivering assistance within 48 hours in emergency



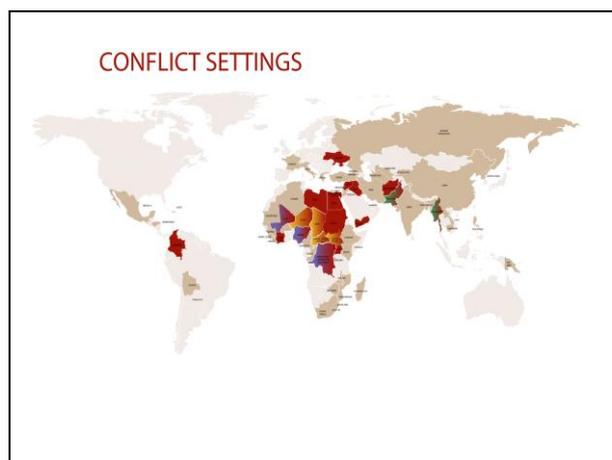
© Tomas van Houtryve/MSF © Delia Muresan/MSF © Simon Mours/MSF



2013年の状況です。3万5000人のスタッフがいます。そのうち国際的なフィールドスタッフは2600人です。72カ国で活動しており、3分の1が紛争関連の国、地域での活動です。年間約10億ユーロの予算があります。われわれのロジの能力で、装備、人員を48時間以内に現地に送り込むことができます。われわれの予算の90%は、一般からの寄付です。



この地図は、われわれが世界的にどのようなところに展開しているかを示しています。アフリカも大変多いですが、中央アジア、また他の地域もあります。南アジアなどもあるし、中南米もあります。このように世界各地で紛争はありますが、私どもが展開しているのは、ほとんどが今、紛争があるところでは



コートジボワールはまだ紛争中と書いてあります。そこだけが違います。

## The Military and humanitarian interventions

さて、軍事介入、人道介入についてお話しします。

**The Military and humanitarian interventions**

---

- Since the end of the cold war, there is development of foreign military interventions with stated humanitarian dimension:
  - Under the banner of the UN
  - Unilateral (Kosovo, Iraq, Syria, etc.)
- They are labelled "humanitarian intervention" and claim to act on behalf of protecting victims of war and oppression
- In the case of UN peacekeeping mission, they have the official mandate to protect population & facilitate the deployment of humanitarian assistance along with other political goals


8

既にお話があったとおり、冷戦が終わってから外国軍による介入という動きが出てきました。その中に人道的な側面があります。例えば国連の旗の下に行く、あるいは多国籍、あるいは一方的な形で、国連とは関係ないところで、コソボ、イラク、シリアなどの活動もあります。人道介入ということで、これは戦争や抑圧の犠牲者を保護するという名目が付いています。

コソボは例えばこのような介入の最初の例だったと思いますが、最近では、アメリカのイラク、シリアへの介入もまさに少数派の抑圧や、ジェノサイドから守るという名目になっています。国連の平和維持活動の場合には、きちんとした公式のマンデートがあって、住民の保護、人道支援の支持があります。さらに、例えば中央アフリカ共和国においては、この国の領土保全を守るといった政治的な目標が付け加えられている場合もあります。

**The Military and humanitarian interventions**

---

- humanitarian actors are often called to join and support those interventions.
  
- Aid actors have adopted different attitudes with regards to these calls.
  
- Some aid actors support the goals of the UN and/or western democracies, and are eager to join
  
- 'Dunantist' aid actors sticks to limited ambitions (ensuring the survival of people in times of war) and consider foreign troops (UN or others) as a belligerent among others.

 9

人道アクターも、例えばアフガニスタンでは、コリン・パウエル氏が人道アクターが入ることによって、乗数効果が生まれるのだと言われて、アクターの参加が呼び掛けられました。そして NGO が入ることによって、軍事的なコアリションが生まれ、その支援が求められました。

われわれ人道支援側にはそれに賛同して、西側民主主義的な目標を達成することに積極的で、例えば社会政治的な改革をしよう、外国軍と一緒にやろうというグループもあります。

しかし、いわゆるデュナン主義者といわれるような人たちもいます。デュナンというのは 19 世紀の赤十字運動の創始者ですが、この流れをくむ人たちは、そんなに野心的になるべきではないのだという立場を取ります。とにかく被災者の生存が最大の課題であると。そして、外国軍は、例えば国連軍であっても、戦闘員は全て他の武装勢力と同じ交戦当事者なのだという捉え方をします。われわれは国際武力紛争においては、どちらかというデュナン主義者の立場を取っています。

## MSF's position and principles

we believe that:

- The pursuit of development, security, peace, can enter into contradiction with the goal to provide impartial aid here and now to those who need it most
- To operate on all sides of the front lines, MSF has to keep equal distance with all belligerents, including foreign troops

(This only true for conflict situation)



10

つまり、どういうことかということ、われわれが開発、安全、平和という目標を追求することによって、支援を最も必要とする人が普遍的な援助を得られなくなってしまうという矛盾を生むことがあるということです。われわれは紛争の両方の側で活動します。ですから、医療支援を求めている人たちのところにわれわれは行くので、全ての交戦当事者、すなわち外国軍等も含めて、等距離を必ず保つようにしています。自然災害のときはこのようなことはありません。自然災害対応のときは、外国軍とも緊密に協力することがもちろんあります。



では次に、現場でこれがどういう意味を持つのかという視点からお話をします。

#### MSF and the Military in violent conflict environments, in practice

- Our security relies on 'acceptance' and the perception of neutrality
- as well as respect to provisions to protect medical personnel in IHL
- Defining our own contextual analysis
- Maintaining independent organisational, decisional structure and physical assets
- Our hospitals and health centres are 'weapon free'



12

われわれは自分たちの安全確保のために、とにかく現場に中立的だという認識を持ってもらい、受け入れてもらうということを重視します。われわれのやっている活動が中立だと理解をしてもらい、住民に守ってもらうということです。われわれが中立だという認識を現地で持ってもらうことが重要です。ですから、武装勢力にくみすることはありません。ですから、現地の住民に中立的な立場と認識されて受け入れてもらうことができます。

そして、医療要員を守るために、国際人道法に基づいた形での活動を行います。われわれは医療支援機関ですから、戦闘員に対しても国際人道法を守ってもらうことを求めます。

われわれは、現地の治安状況をわれわれなりに分析した上で活動します。そして、適切な情報を集めた上で、治安状況をわれわれ自身が判断して、活動をやるかやらないか、内容なども決めます。

独立した組織としての意思決定体制、物理的なアセットを維持します。つまりどういうことかということ、われわれは国連のコーディネーションのクラスターの中にも入らないし、その他の施設や敷地の中にも入らない、そしてわれわれの資産は全て MSF だけのものということで活動するということです。

病院や診療所には武器の持ち込みは一切禁止します。これは市民に対しても、戦闘員に対しても適用されるルールです。戦闘員に対してもわれわれは医療支援をするからです。

**MSF and the Military environment in complex emergencies, in practice**

- Dialogue with all military actors in capitals or elsewhere
- Information about our objectives, activities and how we work.
- Establish chain of command for problem solving
- Patient transfer protocols



13

われわれの安全確保のために、全ての軍事アクターと対話をします。それは首都、その他の地域でもそうです。この対象としては、正式な軍事組織、その他の交戦部隊も入ります。われわれが介入するとき、直接的な戦闘員との接触ができないところでは困ります。

そして、全ての戦闘員などに対して、われわれの目的、どう活動するのかを必ず情報提供します。問題解決のための指揮系統を確立しています。そうすることによって、交戦当事者との協議や交渉などもできるようにします。

そして、患者を移送するためのプロトコルを定めており、安全な形で移送し、治療ができるようにしています。このプロトコルは、この戦闘部隊、武装グループなども含めた混戦勢力と理解してもらうようにします。

**Practice and pragmatism**

- Afghanistan & Syria – lessons and limits in negotiations
- South Sudan – SPLA/UNMIS
- Somalia – use of armed protection
- Central African Republic - Lawlessness, criminality and lack of infrastructure – A call to arms?



14

もちろん現場はそれぞれ違います。現実的な対話はもちろん必要です。ここに幾つか例を挙げました。詳しく全部は申し上げませんが、プラグマティズム、すなわち実務的であるということはどういうことか。アフガニスタンやシリアでは、交渉をしようと思っても、どうしても制約があります。安全に活動できると言われても、例えばけがをすることもあります。アフガニスタンでは、2004年にわれわれの5人のスタッフが武装勢力から安全を確保すると言われたけれども、殺害されることがありました。シリアでは、例えば誘拐に遭ったりすることもありました。安全に守ってあげる

といわれてもそうになってしまいました。ですから、交渉といってもどうしても限界はあります。残念ながら、われわれがこういうやり方の原則を保ったとしても、必ずしも完全に安全に防弾ベストの役割を果たしてくれるわけではありません。どうしてもリスクはあります。ある程度のわれわれの被害が出ることもリスクとして覚悟します。しかし、ハイレベルで犠牲が出そうだという場合、基本的にどの紛争当事者からも、あるいは交戦部隊からも保証が得られないという場合には、われわれはすぐに撤収します。

それから南スーダンでは、国連の部隊について、スーダン人民解放軍の人員を輸送したりしたことに対してわれわれは批判をしました。もちろん国連軍は人道支援物資の輸送もしましたが、ゲリラ部隊の輸送もしているのではないかとわれわれは考えました。ですから、人道物資だけを運んでいるのか、また、国連部隊の弾薬だけを運んでいるのかということで、国連の作戦自体が自分たちもリスクにさらしているのではないかとわれわれは批判しました。

しかし、Dinka 族と Nuer 族との紛争が発生して、住民が国連の施設に殺到してしまうということがありました。こういう状態は白黒はっきりと付けられません。われわれはこういうときに外国部隊として、一度は批判したけれども、協力をしなければいけないということもあります。

ソマリアでは誘拐の被害にも遭ったので撤退しました。例えば武装防護を提供するというように、ある部族からも言われましたが、これ以上は無理だということで限界を感じました。

また、中央アフリカ共和国では、満たされていないニーズがまだまだたくさんあります。しかしガバナンスもなく、不法状態です。内部で協議をして、われわれの対応を拡大すべきかどうかという検討をしました。当時、この状況はジェノサイドと言えるのかどうか、なかなか判断がし難かったのです。実際に、われわれの軍事的な役割も拡大すべきかということを考えました。

そして 1994 年に軍事介入が必要だということを訴えました。やはりわれわれの医師という立場だけでは、ジェノサイドを止められない状況になっているということをわれわれは訴えました。通常は、もちろん軍事活動が必要だとは言いませんが、このときは例外的なことでした。それからシリアでは、軍事的な対応が必要であるということも申し上げました。こちらは、やはり白黒付けられない状況があるということを示すために示しています。ケース・バイ・ケースで対応すること、判断が必要だということなのです。

**Conclusion**



15

**Concluding remarks**

- MSF has no perspective on political agendas during conflicts or on their outcomes, humanitarian action is an end in itself.
- MSF establishes the relationships necessary with all armed actors to allow to deliver medical aid to all who require it
- In practice, MSF needs to constantly balance the risk of instrumentalisation of its operations, with the medical and humanitarian principles that underpins them.



16

結論めいた話になりますが、私ども MSF は、絶対的平和主義者でもないし、軍絶対反対では決してありません。しかし、政治的な立場に対して、何か紛争中に言うわけではないし、紛争の結果として、このような政治的な目標が必要だということをわれわれは言いません。とにかく人を救うこと、人道活動をする事そのものがわれわれにとってミッションであり、目的です。それから、必要に応じて、全ての武装アクターと関係を確立します。そうすることによって、全ての必要とする人に医療支援を届けることができるからという理由です。現実には、われわれの活動が手段化、すなわち政治・軍事的にも利用されてしまうリスクも一方ではありますが、活動の医学的原則、人道原則を遵守するということの二つの間のバランスを常に取りようにしています。



このように私どもは複合緊急事態に対応しています。以上、ご清聴ありがとうございました。